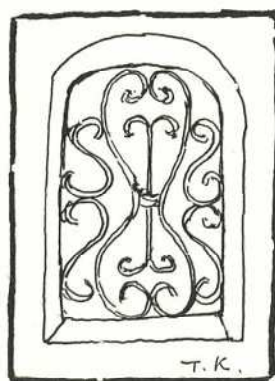


OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

C	O	N	T	E	N	T	S
生と死を見つめて〔窪田隆裕〕							2
脳死者の血圧は臓器摘出時に上昇する〔田中英高〕							3
真に心の通う医療を目指して—21世紀の医療環境(3)—〔牧 彰〕							4
「五体不満足」を読んで学んだこと〔浅山尚美〕							5
看護に対する思い〔溝田真弓〕							6
図書館利用状況							6
他大学図書館訪問記(7)(京都府立医科大学附属図書館の巻)							8
書評「東京セブンローズ」〔岡崎芳次〕							8
本学教職員等著作寄贈							10
第70回日本医学図書館協会総会に参加して〔村上公子〕							10
平成10年度図書館統計							12
お知らせ							13
業務日誌							15
編集後記							15



生と死を見つめて

窪田 隆 裕



今回のエッセイには自分自身の50年の生涯を振り返って、強く記憶の中に残っているものを書き綴ってみようと思います。

私の肉体的苦痛の最初の経験は、8歳の時に外傷性の腸管破裂で手術を体験したことです。この時の術者の先生が、本大学の出身で私の生まれ故郷の田舎の病院で働いておられ、自分もこの大学に入学したのは何かの縁かもしれないと思っています。自分のおなかの傷を見る度に、ショック状態で血圧が低下し、当時の麻酔技術では麻酔をかけることすら危険な状態であったため無麻酔で開腹手術を受けたことを思い出します。その時私は、痛みというより焼け火ばしで火傷をしたときのような熱さを感じましたが、子供の頃でしたので、無心に耐えたことだけが今でも鮮明に記憶に残っています。

次の大きな出来事は20歳の時、兄を癌で亡くしたことでした。私たちは勉学のため10歳で親元を離れ兄弟二人で生活していたため、兄の死は私にとって、本当に大きな悲しみでした。その当時の医学の無力さを痛感し、医者になることを断念しようかとも思いました。心の傷は、肉体が受けた傷とは異なり、治っていくには長い年月を要しました。そこから立ち上がったのは、卒業後第二生理の助手となって忙しい毎日を送るようになってからです。その後精神的にも元気になり、家庭も持って幸せになったのもつかの間のことでした。

30歳の時、外国留学中に従兄より父の癌を知らされ、1年後に帰国しましたが、その翌年父はこの世を去りました。家の後始末をするため一旦生理学教室を離れ、臨床の場に身をおき生まれ故郷に帰りました。ここは当時医療の過疎地で、かつ救急病院でもあったため24時間働かなくてはならないような状況で、その上、内科医が一人だったため、肝炎を患い黄疸が出た時でさえ入院せず診療を続けざるをえなかったのです。その時の不摂生のためか慢性肝炎になってしまい、当直などの無理をすると肝機能が悪化するため、37歳で再び生理学教室に戻りました。

ここまで、自分なりに人生経験をし、また多くの患者さんに接してながら、人生における生と死、幸福と不幸というものの持つ意味を理解していたつもりでした。しかし、この後にもっと強烈な体験が一度にやってくることによって私の人生観も大きく変わりました。それは、44歳で肺腫瘍により右肺切除を受け、術後1年余りで、阪神大震災の被災に会い、その上当時闘病中であった母が死亡したことです。そこで初めて生と死の持つ意味を理解できたように思うのです。

戦争の最中でもないのに震災のなかを半病人の状態で逃げ回り、その上肉親の死が襲ってきた時の当時の気持ちは、筆舌に尽くせない感があります。ただ、毎日を一生懸命過ごすことで精一杯でした。電車に乗っても、座っている人がよく席を替わってくれました。それほど見た目にも自分が弱っていたのだと思います。そんな時、リハビリを兼ねて散歩していたある日、家の庭先に一輪のユリの花を見つけ、その花に無上の幸せを感じました。花が何かを私に語りかけてくるような気がしてしばらくの間、私はそこにたたずみながらこの上もないすがすがしい気持ちになりました。これが、仏教に説いてある無の世界の喜びに近いものだと感じました。精神と肉体の両方の面から自分にとってほぼ極限に近い苦痛を味わったからこそ、このような境地に達し得たのだと思います。そして、生と死は表裏一体であり、また幸福と不幸も表裏一体であると実感したのでした。

健康であることの幸せを感謝せよと人はよく言います。しかし、私の経験からですが、悲しいかな人間が健康であることは、裏を返せば欲深いことだと思います。人が健康で生きることは欲を持って生きよということだとも思います。ただ、自分自身のおかれた健康状態を理解し、どの程度の欲を持って人生を送るかということ気付くことが大切だと考えるのです。これは、私が術後数年たって元気になるに従い、日々健康になったと感じるようになってと同時に感謝の気持ちと共に欲が増していくのを実感するようになって気付いたことなのです。時々、散歩の途中に一輪の花を見つけその花に無上の幸せを感じた喜びをもう一度味わいたいと思うことがありますが、その時はまた死に近い経験をする時だと思っています。

自分の生々しい体験のみを書きつづりましたが、究極の充実感や幸福感は中途半端な時に感じるものではなく、肉体も精神もぎりぎりまで消耗したときのみ訪れるものだと思います。そのときは肉体と精神が一体化し、肉体の一部が精神であると感じとれます。今となつては、人にはあまり体験できない経験が出来、残りの人生を送れることを幸せに思います。

(くぼた・たかひろ 第二生理学教授)

脳死者の血圧は臓器摘出時に上昇する

田中英高

このタイトルをお読みになって、エッ、と思われた方がいるかもしれません。当り前じゃないか、と感じられた読者もおられるでしょう。実のところ、私は、エッ、と思ってしまったのです。

1985年、Wetzelらは脳死患者の臓器摘出時に血圧が極度に上昇すると報告しました。10名の脳死患者において皮膚切開時から血圧、心拍ともに上昇し、収縮期/拡張期血圧は平均で各々、31/16mmHg（最高時90mmHg）上昇し、脈拍は23/分、増加したとしています（Wetzel RC et al. Hemodynamic responses in brain dead organ donor patients. Anesth Analg 1985;64:125-8）。脳死患者の血圧上昇反応は、皮膚切開時のみならず、首の前屈位や（Ku wagata Y, et al. Hemodynamic response with passive neck flexion in brain death. Neurosurgery 1991;29:239-41）、脳死確認のための無呼吸テスト時（Ebata T, et al. Haemodynamic changes during the apnoea test for diagnosis of brain death. Can J Anaesth 1991;38:436-40:肺動脈圧と心拍出量の上昇）にも生ずると報告されています。これらの血圧上昇機序は、脊髄を介する自律神経反射によると推論されていますが、Wetzelは脳幹部を介する反射も否定しきれないと結論しています。

このような脳死者の生体反応は、考えてみれば有り得る現象ですが、移植専門医以外の医師でもあまり知らない事実です。前述のDr. Wetzelがこの報告をまとめた理由は、臓器摘出術時にあまりにも脳死者の血圧が上昇するので、医療関係者の間にも、ひょっとしてまだ死んでないのではないのか、という不安があったからだ、とある雑誌のインタビューに答えています。

私が、エッ、と驚くのと同じように、Dr. Wetzel達もエッ、と驚いたのではないかと思います。私の驚きが非常識なのか確認するために、何人かの周囲の人に、『脳死者の血圧は臓器摘出時に上昇することを知ってましたか?』と聞くと、一般の人ばかりか、看護婦、医師までも、エッ、と驚くか、もしくは、考えたこともなかった、と答える人がほとんどでした。

まだ他にも、脳死状態の生体反応に関して我々の知らない報告があります。唐沢らは、脳死者の頭蓋内脳波測定を行い、微弱ながら脳波を検出したと報告しています（救急医学97年12月号）。また関西医大のグループは鼻腔誘導脳波測定によって、脳死者の脳幹部由来と考えられる活動電位を検出したと報告しています。本邦の臓器移植法の定めるところによれば、第6条において、『脳死とは、脳幹を含む全脳機能の不可逆的停止』と定義されており、もし、これらの報告が正しければ、症例によっては殺人行為を犯す危険性があります。このように臓器移植に関するさまざまな情報は、いまだ一般国民に広く開示されているとは言えません。

現在、臓器提供意志表示カードが全国に配布されています。各医院ではもちろんのこと、成人式でも配布され、ローソンにも置いています。ある医院では、今回の移植報道を契機に、カードはあっという間に品切れになったようです。厚生省・日本臓器移植ネットワークによるアンケート調査では、脳死からの臓器移植に半数以上の人が賛成しているとしています。自分の臓器が人の役に立てるのなら、と考えている善良な人々がいかに多いかが伺えます。すでに意志表示カードにある、同意します、の項目に、丸を付けた人がいるかもしれません。

しかし、この段階で大きな落とし穴があることを、ほとんどの人が知らないのです。なぜなら、たとえばローソンからもらってきたドナーカードに丸を付けた『贈りたい人』は、摘出術の手技や手順、前述したような摘出に伴う生体反応、不良摘出臓器の廃棄処分などについて、なんら説明を受けていないのです。念のため、私が日本臓器移植ネットワークに確認したところ、『遺族には移植術に際して十分な説明を行うが、ドナー候補者にはしていない』と回答しています。すなわち、現状ではドナー候補者がもし脳死になれば、なんらインフォームドコンセントを受けないまま、皮膚切開時に血圧の上昇することも知らず、ひょっとして脳幹部機能が残存しているかもしれないのに、臓器摘出されることになってしまうのです。

唯物主義者なら、脳死状態は意識もないのだから別にいいじゃないか、とおっしゃるでしょう。

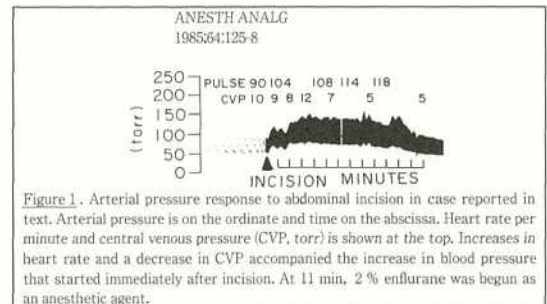


Figure 1. Arterial pressure response to abdominal incision in case reported in text. Arterial pressure is on the ordinate and time on the abscissa. Heart rate per minute and central venous pressure (CVP, torr) is shown at the top. Increases in heart rate and a decrease in CVP accompanied the increase in blood pressure that started immediately after incision. At 11 min, 2% enflurane was begun as an anesthetic agent.

しかし私の周囲の人に、『臓器摘出時に血圧が上がると知った場合、ドナーとなることに躊躇しないか?』と質問すると、ほとんどの人が、躊躇すると、答えました。それゆえに、十分なインフォームドコンセントを行なった上で、ドナーカードを配布すべきです。

脳死に関わる死生観は個人の宗教観によって異なります。日本では仏教がメジャーですが、釈迦は色心不二（肉体と心は分けられるものではなく一体である）と説いています。たとえ脳機能が停止していても、心臓などの臓器機能が活動している間、意識（魂）は肉体に宿っているとしています。日本で臓器移植を行なう場合には、このような仏教的考え方もインフォームドコンセントに含め、それを了解した上で、意思表示を行なうべきでしょう。

今から十年ほど前、伝統のある学会に出席しました。『脳死と臓器移植』についてシンポジウムが開催され、現在でも臓器移植推進派のリーダー的な方が座長をしておられました。その座長は、『脳死は、各臓器の本来の機能をみる最も適した材料である。』といった過激な発言をしていました。当然、反論がでましたが、驚いたことに、『座長の権限で、一切の質問は受け付けません』と放言し、議論半ばで直ちにシンポジウムを閉会してしまいました。あまりの強引さ、傲慢さに私は呆気に取られてしまいました。臓器移植が、『命のリレー』という美名のもとに強引に恣意的に誘導されてはいないか、私は懸念しています。

医療は、病気を克服するという手段によって、人の幸福を追及する職種です。しかしそれは決して他者の犠牲の上に成り立つものではありません。自分の幸福は、必ず、他者の幸福となる、他者が幸福であってこそ、自分の幸福がある、という『自利即利他』の仏教的精神が、医療にも欠かせないのではないのでしょうか。

（たなか・ひでたか 小児科学助教授）

真に心の通う医療を目指して—21世紀の医療環境（3）—

牧 彰

「えっー。ここで赤ちゃんを産むの！」一瞬、悲鳴とも聞こえる嬌声が室内に反響しました。N医療センター施設見学会での出来事です。それは、院内を順次巡り、産科病棟分娩室に入った時の同行した女性設計者の拒否反応とも思える叫びでした。

室内は見るからに清潔で、天井には無影灯が煌々と輝いています。並列に置いてある分娩台の間はカーテンで仕切られ、同時にお産が行なわれることもあるとのこと。陣痛室・回復室と連続していて、患者の動線は簡潔ですが、相互の防音対策はなく、プライバシーへの配慮は少しもありません。医療スタッフの動きも無駄がなく、設計者と病院側の十分な検討による合理的な設計であることは良く解ります。

しかし、これで良いのでしょうか。あまりにも一方的な病院側の都合ではないのでしょうか。医師や設計者は患者の立場になって考えなかったのでしょうか。産婦は病人ではなく、一人の健康な女性です。出産は手術ではなく、健全な生命の自然の証です。もっと産婦の[人間としての尊厳]が守られるべきです。半世紀前の産婦の多くは自宅でお産をしました。家庭の安らぎを重視し、明るい雰囲気落ち着いた部屋で、暖かい家族の愛情に見守られ、安全と寛ぎの両立する心の籠ったお産は無理なのではないのでしょうか。日本の病院では全てが極端にはしり、一番大切な[人間性]が見失われています。奉仕の精神に則り、患者と医療スタッフの目線を同一にして、機能とアメニティの適正な均衡の上に、ホスピタリティ豊かな病院は何故出来ないのでしょうか。

赤穂市民病院は赤穂市及び地域住民10万人の西播地区中核病院ですが、産科の設備は決して良好とは言えず、近年の市内での出産占有率は第3位に甘んじてきました。少子化傾向の現在では、大多数の産婦とその家族は、設備の充実したアットホームな病院で産むことを望んでいます。市民病院の改築に当たって、産科の医療スタッフの願いは、あまり経済的な負担をかけずに真に心の籠った医療を提供して、再び地域での信頼を取戻すことです。院内の慎重な調査・検討の結果、自宅に居るようなリラックスした雰囲気の中で、プライバシーを守りながらお産が出来るLDRシステムの承認を得ました。

新しい分娩室は一台の分娩室1室とLDR室2室として編成されました。一般に産婦の95%は普通



産婦の「人間としての尊厳」が尊重されているLDR室

分娩と言われています。産婦は陣痛が始まると病室からLDR室に移り、分娩台兼ベッドで陣痛（LABOR）・分娩（DELIVERY）・回復（RECOVERY）を行います。産婦は不自由な身体と苦痛に耐えて部屋を移る苦行から解放されました。室内は自宅の寝室と同じ様に明るい窓のある落ち着いた配色で調和され、テレビや絵画もあり、洗面台・トイレ・付き添い者のためのソファベッド等も完備しています。分娩時に必要な医療器材等は、部屋の雰囲気乱さぬように隣の準備室に集約しました。個室のため、家族の立会出産にも便利です。分娩室は手術室に準ずる仕様で、難産の場合に使われます。全ては「ヒポクラテスの誓い」と「ナイチンゲール精神」により、産婦と家族のために捧げられました。

開院当日早々、新病院での最初の赤ちゃんが誕生しました。この母親の初産は帝王切開だったので、万全の準備をした上での産婦の頑張りと医療スタッフ一同の懸命な支援が実り、普通分娩でした。幸先の良い新病院のスタートです。LDRシステムは心の通う医療を待ち望む地域住民に快く歓迎され、産科病棟は開院後直ぐに満室になりました。医療スタッフ一同の熱い想いは遂に適えられたのです。私も微力ですが「心を形に」するお手伝いを気持よくさせていただきました。有難うございました。

（まき・あきら 元日建設計社員 本学総合研究棟・本部図書館棟設計担当）

「五体不満足」を読んで学んだこと

浅山尚美

私はいつもはなにげなく本屋の前を通り過ぎるのに、その日はふと店頭並べてある本に目がいき、立ち止まっていました。表紙には「五体不満足」と書かれた両手両足がなく、電動車イスに乗っている一人の男性の写真でした。さわやかな男性の顔の表情にひかれ、どんな本なのだろうと興味をもち、思わず手に取り読み始めたことが、この本を読むきっかけとなりました。

著者である乙武洋匡さんは出生時から原因不明で両手両足がありませんでした。その姿を初めて見た母親は、「驚き」「悲しみ」ではなく「かわいい。」という喜びの声だったそうです。そんな両親の愛情、そして多くの友人、学校の先生に支えられ、数々の困難を乗り越えてきたこの23年間の彼の「生きる力」がこの本にはあふれています。

彼は「自分にしかできないこと」＝「心のバリアフリー」であるといいます。また、障害をもっている人、その人の心の持ちようで「生きる楽しさがある」、「その人にしかできないことがある」ということを本にし、多くの人に伝えていきます。そのことが彼にとって「生きる力」となり、そして「心のバリアフリー」になっているのではないかと思います。

私は今、一つの夢「看護婦」を目指しています。自分が健康で何一つ病気をしたことがないからこそ病気で苦しんでいる人や、障害をもった人の少しでも手助けや力になれることで、自分を生かすことができればと思っています。これが私の「心のバリアフリー」になるのかは分かりませんが、障害があるないにかかわらず、その人それぞれが「心のバリアフリー」を見つけていくこと、又、貢献していくことが「生きる力」となっていくのだと思います。

この本を読んでヘレン・ケラーの言葉にもあるように、「障害は不便である。しかし不幸ではない。」ことを改めて実感させられたように思います。

（あさやま・なおみ 第一看護学科2年・図書委員）

看護に対する思い

溝田真弓

幼い頃から看護婦の職業に憧れて、看護婦を目指し、大阪医科大学附属看護専門学校に入学してから、早いもので一年という月日がたちました。入学当初は、看護の意識もまだ浅いものでしたが、専門知識の学習や技術演習や臨地実習を通して、私の看護観が少しずつ、変化したように思います。

特に印象深い体験として、一年の二月の基礎実習で、咽頭癌のT氏と出会い学んだことです。T氏は、術後で気管切開をしていました。私は、言葉が話せない患者さんとの、コミュニケーションを図ることが初めてで、どのように接してよいのか、分かりませんでした。しかし、何か話しかけなければと思い、窓から見える北摂の山々を見て「ここからの景色はいいですね」と声をかけると、T氏は淋し気な表情を見せて手を横に2回振りました。その時に初めて、T氏は首を動かすことができず、外の景色も見ることができないことに、気づかされました。そのことに気づかなかった自分が、恥ずかしくなりました。

そして、実習最後の日にはT氏の肩と首に挿入されていたチューブ2本が、抜去されていたため、首も少し動かすことが可能となっていました。その日は雪が降っていたので、T氏に「外は雪が降っていますよ」と伝え、50音表を使い指で「べ・つ・ど・を・あ・げ・て・ほ・し・い」と示されたので、T氏の希望通りベッドを少し上げました。T氏は少しだけ首を窓側に傾け、外の雪をじっと見つめていました。その時のT氏の表情がとても嬉しそうで、私は胸が熱くなり、涙がこぼれそうでした。

はじめは健康であれば当たり前のことが、病気によって制限される不自由さが、どれ程辛いものなのか理解できませんでした。しかし、私は今回の体験を通して、まだまだ知識や技術は未熟ですが、患者さんの辛さや痛みを共感する心の大切さを感じることができました。また、言葉だけがコミュニケーションではなく、表情や態度によっても、コミュニケーションを図れるのだと分かりました。

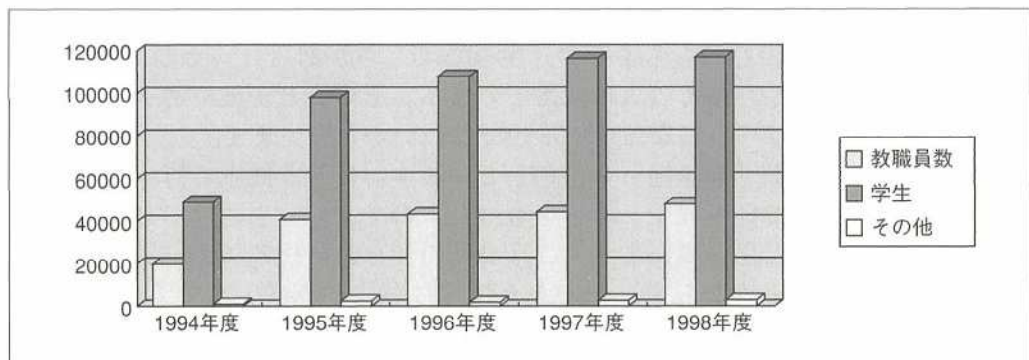
これからも、多くの患者さんとの出会いを通して学び、自分の目指す看護婦像を築き上げていく努力をしていきたいです。

(みぞた・まゆみ 第一看護学科2年・図書委員)

図書館利用状況

(1994年度～1998年度の推移)

1. 入館者数

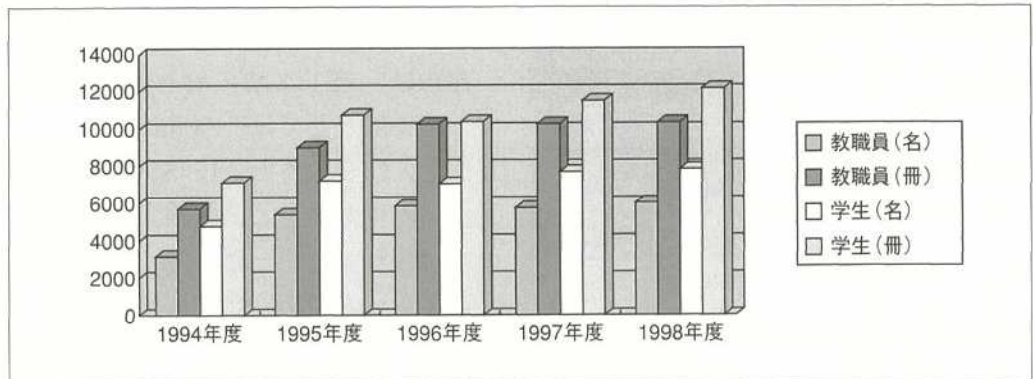


	教職員数	学生	その他	合計	1日平均
1994年度	20470	49817	597	70884	440
1995年度	41468	98086	2421	141975	486
1996年度	44001	108530	2220	154751	541
1997年度	44672	116922	3224	164818	564
1998年度	48451	117799	3182	169432	584

(1994年度は、9月5日から翌3月31日まで)

1998年度の入館者数は、1997年度に比べ全体で2.8%の増加です。
教職員では8%の、学生では0.8%の増加となっています。

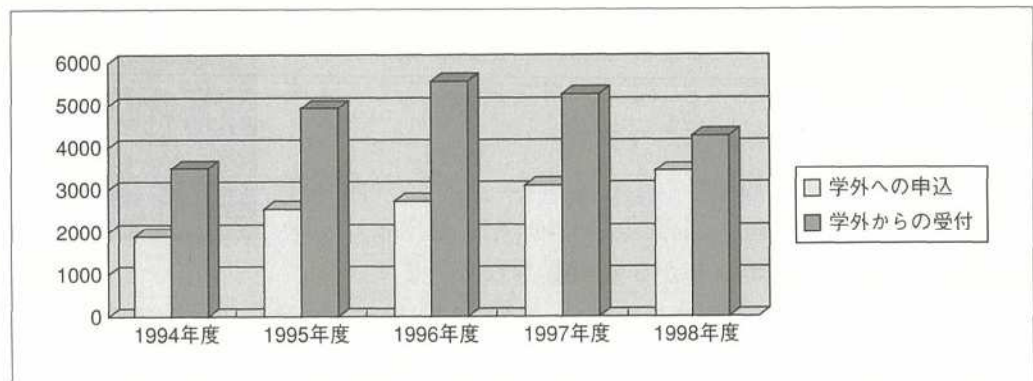
2. 貸出



	教職員(名)	教職員(冊)	学生(名)	学生(冊)
1994年度	3212	5675	4779	7112
1995年度	5300	9055	7240	10735
1996年度	5777	10136	7088	10327
1997年度	5686	10141	7807	11474
1998年度	5879	10237	7962	12042

1998年度は、教職員で貸出者数が3%の増加、冊数は若干の増加、学生では、貸出者数は2%の増加、冊数は5%の増加となっています。

3. 相互貸借



	学外への申込	学外からの受付
1994年度	1919	3505
1995年度	2586	4932
1996年度	2760	5583
1997年度	3122	5319
1998年度	3502	4312

相互貸借では、学外への申込が35%、7%、13%、12%と毎年増加している。
学外からの受付は、40%、13%と増加してきたが、1997年度は5%、1998年度は19%の減少となりました。



図書館正面玄関

京都府立医科大学附属図書館は、大学創立120年にあたる平成4年5月に附属図書館・合同講義棟として新館を開館されました。

建物は、地下1階・地上2階建て、延べ面積は5,000m²で、図書館としては2,400m²で、24万冊の蔵書量です。

1階入口を入ると、BDSシステムが設置され、右手には、メインカウンターと情報検索室、左手に5台のコピー機を備えた複写コーナーと目録コーナー（OPAC）およびブラウジングルームがあります。奥に進むと、第1閲覧室で1986

年以降の洋雑誌と新着雑誌コーナーおよび二次資料（IM・医中誌等）が配置され、5室の個人閲覧室も設けられています。

その他、1階には京都府医学振興会と医学交流センターがあります。

2階は、第2閲覧室に単行書が配置され、カウンターと目録コーナー（OPAC）が閲覧室入口すぐにあります。第3閲覧室が自習用スペースとして設けられ、22席のセミナー室は、2室に区切って利用できるようになっており、グループ学習や研究会に使用できます。ビデオルームは、10ブースでビデオソフトを自由に使用できる。AVルームは、42席で視聴覚機器を使用して研究会や講義等でも使用できるようになっています。2階には、展示コーナーもあり、貴重書や大学に関連したテーマの常設展示が行われています。

地階は、書庫となっており、固定式書架に、1981年以降の和雑誌と1981年から85年までの洋雑誌が配架され、2層式の電動集密書架には、1980年以前の和・洋雑誌と旧分類の単行書が配架されています。なお、固定式書架は、将来2層目が増設可能になっています。貴重書庫もあり、古医書や大学関係図書を納めてあります。

大学学生課管理の施設として、2階に、入学・卒業式等が行われる合同講義室（図書館ホール）が、地階には、学生が利用できる学生ホールが3室設置されています。

平成9年度より、学内LANにより、MEDLINEデータベースへのアクセスが24時間可能となり、ネットワーク化により分室である花園図書室とも結ばれました。

閲覧室の机には、学内LAN接続用の情報コンセントが備えられたものがあり、利用者の利便性に考慮されたものとなっており、当館でも今後整備を検討する必要があると思われます。

大学のみならず、学外医療関係者にも開かれた図書館として、京都府の医療向上に寄与することをめざして、今後電子図書館的機能の充実も図られていくとのこと。

（福広）



第2閲覧室（3F）

書評

東京セブンローズ

井上ひさし 著 文藝春秋社 1999年
岡崎芳次

私にとっての井上ひさしの魅力・おもしろさは、彼が持つ「日本のことば」に対する深い造詣と「ことば」から滑稽さを引き出すその縦横無尽な使い方にある。この小説で扱われている「戦争」



と「漢字」という深刻な問題と、780頁に及ぶ大作にもかかわらず、彼の駆使する「ことば」を楽しみながら読み進むことができる。

小説の主な舞台は1945年（昭和20年）4月から1946年4月にかけての、米軍の空襲が続く敗戦直前から連合軍が進駐してきた直後の東京である。主人公である山中信介は、明治25年（1892年）の生まれの根津（上野の近く）に住む團扇（うちわ）屋の主人で、小説は彼の日記という体裁をとっている。前半では戦争前後の食料確保も、身の安全もままならない東京都の庶民の様子が詳細に描かれている。

空襲のことを庶民の立場から描いた小説としては加賀乙彦の「炎都」、妹尾河童の「少年H」、今江祥智の「ほんほん」が思い浮かぶが、本小説の特徴は当時の印刷物（新聞記事、回覧板、掲示板など）を通して戦争を語るという井上ひさし独自の視点から書かれており、他の作品とはまた違った臨場感が伝わってくる。

彼のかきっぷりはたとえば、「（活版屋から）活字が徴発されて鉛の弾丸になったといふ。となると「命」といふ活字と「中」という活字がたまたま一丸となる場合もあったらうと思う。さういふ弾丸の命中率は相当に高かったのではないか」に表れているように「ことば」にこだわって軽妙である。

この小説の真骨頂は、ひょんなことから山中氏が雇われることになった占領軍民間情報局の言語課長兼日本語簡略化担当官なるホール海軍少佐と彼との間の日本語における漢字についての論争にある。ホール海軍少佐は、日本人は「かな」という合理的な表音文字を発明しながら漢字にこだわりすぎ、持て余しているのではないか、漢字を使うのを止めた方が国際社会から理解されやすくなり日本のためだと主張する。それに対して山中氏は、実体を持つ概念を漢字で、関係を表す概念をかなで書く方法は合理的であること、語彙の半分以上が漢語であって漢字を廃すると日本語が腑抜けになってしまうこと、漢字の造語力が日本語を豊かで便利なものにしてしまうと反論する。

小、中学校時代を考えれば、「日本語」の時間にはいつでも漢字テストがつきもので、はねてあるか、書き順は正しいか、送りがなは正しいか等、注意され続けた。また、小学校にいらっしゃる子供たちの宿題の定番は算数ドリルと漢字練習で、いつもうめきながらやっている。漢字は戦後、制限されて少なくなり、また簡略化されて負担が多いに減ったことは事実だが、まだ負担が多すぎるように思わないでもない。

しかし、漢字の効用を考えるとときいつも思うのが植物の和名である。和名はかなで表記するようになっていて、だれにでも読めるという利点がある。しかし、和名を耳から聞いた場合、あるいは植物園などでプレートに書いてある場合、これが実に覚えにくい。それは、覚えるためには命名の由来を考えるのが普通であるが、和名の多くが漢字を前提にしているためになにに漢字を割り振って考えることになる。たとえば、「はくちょうげ」という小さい白い花をいっぱいつけて初夏に咲く植物を、最近まで私はそれを「白鳥毛」と思い込んでいたが、実は「白丁花」であった。牧野日本植物図鑑には和名の後に漢字名が添えられ、しかも最後に和名の由来が書いてあり、調べておればこんなことにはならないのだが、どうすればかな表記に八つ当たりしたくもなってしまう。

ところで、どうしてこの小説のタイトルが「東京セブンローズ」なのかということは、筋書きと結末に深くかかわっているもので、読まれる方のお楽しみということにしておきます。最後に漢字テスト。「ゝ」はなんて読むのでしょうか。

（おかざき・よしじ 生物学講師）

本学教職員著作寄贈

第三内科学教室

循環器の臨床；この症例にどう対処するか／河村慧四郎監修 1999

山本隆一（医療情報部）

医療関係者のための電子メール活用法／山本隆一他著 1999

勝岡洋治（泌尿器科学）

前立腺特異抗原（PSD）／勝岡洋治、東治人共訳 1999

中島正之（眼科学）

白内障・緑内障の診断と治療（30の大学病院による診断と治療シリーズ）／中島正之他著 1998

第70回日本医学図書館協会総会に参加して

村上公子



第70回日本医学図書館協会総会風景

5月20日～21日にかけて、第70回日本医学図書館協会総会が開催された。

以下に、その報告をさせていただきます。

*

5月20日（木）晴れ
（司書会議）

1日目は、午前中にセミナーが、午後からは、日本医学図書館協会奨励賞受賞者研究発表及び、シンポジウムが開かれた。

セミナー：「外国雑誌問題と電子メディア」

「九州地区における〈外国雑誌〉を取り巻く環境」

熊本大学図書館 阿部 光恭氏

：九州地区加盟館に対して実施したアンケート調査結果の報告と、医学図書館協会（以後医図協）への提案。利用状況の悪い、いわゆるレアジャーナルから削減されがちなので、所蔵数の少ないジャーナルについては、購読を中止すべきではない等といった意見を発表された。

「分担収集と電子的情報資料の共同利用」

日本医科大学図書館 殿崎 正明氏

：分担収集・共同利用の必要性、分担収集におけるメリット・問題点、電子情報資料の共同導入について。国立医学図書館を、建設することが望ましいが、現状では無理なので、不要雑誌の集中保存や、電子雑誌の共同購入など、できるところからは始めるべきであるとおっしゃっていた。

「外国雑誌価格問題とオンラインジャーナルの動向」

ユサコ株式会社 増田 豊氏

：Journals @ Ovid・High Wire Pressの紹介。

各々の、特徴や、提供形態と価格、機能と収録内容というようなことについて、情報を提供していただいた。

「国立国会図書館における資料の収集と保存について」

国立国会図書館 山地 康志氏

：外国資料（特に学術雑誌）の蔵書構築、国内における外国雑誌の提供体制、資料保存体制について。尚、国立国会図書館では、Pro Quest Power Pageを導入し、実際にサービスを行っているようだ。

「電子的資料の共同購入検討WGの活動状況について」

熊本大学図書館 浜崎 修一氏

：九州地区における「共同購入WG」活動の概要と、電子ジャーナル導入における現状の問題点。及び今後の展開について。

*

日本医学図書館協会奨励賞受賞者発表

日本医学図書館協会奨励賞を受賞された、東邦大学医学部図書館・平輪 麻里子さんの、研究発表が行われた。「ネットワーク検索時代におけるキーワードの役割」この研究は、OPACのキーワードの役割について、平輪さんが、56大学のOPACを調査されたもので、その結果から、OPACのキーワード検索の弱さを指摘されていた。更に目次情報の利点にも着目、書誌データに、検索可能な目次情報を盛り込むことを提案されていた。

*

シンポジウムのテーマは「21世紀に向けての医学図書館協会の展望」というものであった。シンポジストからの発表の後、活発な質疑応答、意見交換が行われた。尚、各シンポジストの演目は、以下のとおり。

「館長としての努め」

福岡大学医学図書館医学分館長 坂本 康二氏

「EBMを支援する情報の組織とサービス」

愛知淑徳大学文学部教授 山本 茂明氏

「情報の検索から知識の発見へ」

九州大学附属図書館長 有川 節夫氏

「21世紀の医学図書館員の資質、養成、教育研究活動」

九州情報研究会 朝倉 一氏

「医学情報ネットワークとしての21世紀のJMLA」

日本医学図書館協会 佐藤 和貴氏

*

5月21日（金）晴れ

（総会）

来賓などの挨拶・司書会議報告の後、審議が行われ、午後からは講演会が開催された。以下は、審議案。

- 1) 平成10年度事業報告について
- 2) 平成10年度決算について
- 3) 平成11年度事業計画（案）について
- 4) 平成11年度予算（案）について
- 5) 会則及び細則の改正について
- 6) 日本医学図書館協会所有電子媒体資料利用規定の制定について
- 7) 基礎研修会、研究会、継続教育コースの地区持ち回り制の実施並びにそれに伴う教育大綱の改訂について
- 8) 館長司書会議の新設並びに教育大綱への追加について

*

財政担当理事の報告によると、今年度も引き続き協会の財政状況は厳しくまた、加盟館の脱退などもおきているようである。

協会としても、新規会員の獲得や、新しい事業を行うなど、新規の財源が必要なのではないかと、といった意見も出された。

*

（講演）

「目前の子供たちの多様な環境観を、本のように読み取れるか？」

福岡大学教授 守山 正樹氏

子供や学生それぞれの、感じている事・考えている事をいかにして読み取ればいいのか、アンケート

ート調査の結果とあわせて、講演された。

*

(感想)

ひとことと言うと、自分の勉強不足を感じる2日間でした。電子ジャーナルのことにしても、まだまだ初心者中の初心者ですし、医図協の審議中など、「このような場所に、私のような者が居て本当によろしいのでしょうか??」といった具合でした。

しかし、セミナーや講演などでは、ほんとうにいろいろなことを知ることができました。やや、消化不良気味ですが、今後の業務に活かせればと思っております。

(むらかみ・きみこ 庶務係)

平成10年度図書館統計

年間受入図書および製本冊数

	購入図書		製本雑誌		寄贈図書		計		合計
	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
図書館	1080	163	671	2715	203	54	1954	2932	4886
教室図書	23	5	0	0	0	0	23	5	28
研究費	266	144	0	0	0	0	266	144	410
計①	1369	312	671	2715	203	54	2243	3081	5324
さわらぎ分室	473	8	39	232	10	26	522	266	788
研究費	49	280	0	0	0	0	49	280	329
計②	522	288	39	232	10	26	571	546	1117
合計①+②	1891	600	710	2947	213	80	2814	3627	6441

受入カレント数

	購入		寄贈		計		合計
	和	洋	和	洋	和	洋	
図書館	316	547	639	117	955	664	1619
研究費	17	22	0	0	17	22	39
計①	333	569	639	117	972	686	1658
さわらぎ分室	37	60	5	0	42	60	102
研究費	2	11	0	0	2	11	13
計②	39	71	5	0	44	71	115
合計①+②	372	640	644	117	1016	757	1773

蔵書数

平成11年3月31日

	図 書			雑誌 (所蔵タイトル数)		
	国内	外国	計	国内	外国	計
さわらぎ分室	28,431	26,019	54,450	200	130	330
専 門	65,127	74,694	139,821	2,437	1,605	4,042
合 計	93,558	100,713	194,271	2,637	1,735	4,372



1. 図書館カードについて

以下の方の図書館カードは1999年3月末で有効期限が切れてい
ます。

- ・1995年度中にカードを作成された、専攻医、研究生、副手等
の方（有効期限4年）
- ・研究補助員で、カード作成後3年が経過した方（有効期限3年）
- ・学部2年生（3年生からカードが新しくなります）
- ・学部、看護専門学校卒業生

本学に残られる方以外でも、卒業生としてカードを作成しますので申請してください。

- ・実習生等（有効期限1年）

また、所属や身分が変更となった方も、更新が必要ですので申請してください。

なお、有効期限の計算は、年度単位（4月から翌年3月）となっております。年度途中で作成
した場合、3月31日までで1年分となります。

該当する方は、利用登録申込書を提出してください。用紙は図書館にあります。

ご質問は、図書館カウンター（内線2799）まで。

2. コインロッカーの利用について

図書館入口の入館ゲート手前に利用者用のコインロッカーを設置しています。最近このロッカ
ーの私物化が目立ち、利用者の方が迷惑しておられます。

ロッカーのご利用は図書館利用中のみとし、退館時には必ず荷物をお持ち帰りくださるよう
ご協力ください。

閉館時に残ったままになっている荷物は、整理させていただきます。また、引き取り手のない
荷物は、不用品として処分させていただくこともありますので、ご注意ください。

3. 平成10年度卒業生より図書の寄贈

平成10年度卒業生より10万円相当分の医学哲学、医学倫理関係の図書の寄贈がありました。

医学を哲学する；医学、この問題なるもの／池辺義教著 世界思想社 1,950.-
他 48冊 合計 100,000.-

4. 三八会（本学38年卒同窓会）より図書の寄贈

植木實教授より、三八会を代表して、10万円相当分の辞書関係の寄贈がありました。

医学英語の基礎知識／A.R.ハットン著、菅原勇監訳 西村書店 4,300.-
他 24冊 合計 100,000.-

これらの図書は、本学図書館の蔵書として、利用者に利用していただくよう、お知らせいたし
ます。寄贈していただいた方に対して、厚くお礼申しあげます。

5. 図書館合同運営委員の交替

平成11年度より、高山妙子先生から、中山サツキ先生に替わりました。

6. タイトル変更

『日本看護学会集録』は、第29回（1998年）より『日本看護学会論文集』に変更になりました。
ただし、当図書室での配架場所は従来通り（看護図書コーナー）です。

7. 新規受入雑誌

地域ケアリング 1（1999）+

BL inside web のバージョンがアップしました

館報12号でお知らせしましたとおり、図書館では、The British Libraryが所蔵する約2万タイトルの雑誌と、1.6万タイトルの会議録を情報源としたinsideサービスを、学内ネットワーク（図書館のホームページ）からアクセスできるように契約しました。

データの遡及年度は1993年以降で、各雑誌会議録の目次情報が提供され、さらに約1,000タイトルについては著者索引も付与されています。

inside を利用するには、<http://inside.bl.uk:443> に接続し、あらかじめ各教室に割り振りお知らせいたしました、USER NAMEとPASSWORDとを入力して下さい。

The British Library のホームページは <http://www.bl.uk/> です。

また、The British Libraryが所蔵する雑誌のリストは、<http://www.bl.uk/serials/> にあります。

1999年5月17日（BL現地時刻）に、inside web 1.3になりました。

クイックサーチ画面ができ、直ぐに検索語が入れられるようになりました。

以下はバージョンアップした画面です。

British Library inside Web Service

<http://inside.bl.uk:443/>

画面 1

welcome to



[Click Here To Continue](#)

British Library inside Web Service

http://inside.bl.uk:443/Userdevcgi/Home?CMD_MOTD.x=1&CMD_MOTD.y=1



THE BRITISH LIBRARY
inside web

Local time Boston Spa is 09:42 Tuesday 25 May 1999

画面 2

Service Message	Account Status Report
What's new on inside	Welcome lib002 You have a budget of ¥0.00 for ordering



Search Selection

Service Hours: 08.00 - 04.00 hrs Monday - Friday, 00.00 - 04.00 hrs Saturday except UK public and official holidays

If you have any queries please contact the inside Help Desk: 0800 413858 (UK) or (+44) 1937 546640 (international)
email: inside-helpdesk@bl.uk

© 1999 British Library Board. All rights reserved.
Please read the [conditions of use](#), [copyright conditions](#) and [Data 2000 compliance](#).



Search

<http://inside.bl.uk:443/Userdevcgi/UserSearch>



Search Selection

画面 3

Quicksearch

Search Term: AND Run



図書館業務日誌

- 1月
- 22日（金）日本医学図書館協会資料保存委員会（於、本学図書館）
 - 28日（木）（株）ユサコ主催HighWire Seminarに館員参加（於、千里ライフサイエンスセンター）
 - 29日（金）日本医学図書館協会企画・調査委員会（於、阪大生命科学図書館）
- 2月
- 1日（月）日本医学図書館協会総会組織委員会（於、福岡大学医学部）
 - 3日（水）日本医学図書館協会総務会（於、協会中央事務局）
 - 4日（木）日本医学図書館協会理事会、評議員会（於、慶応大病院）
 - 12日（金）（財）国際医学情報センター館員が見学来館（二名）
 - 25日（木）図書館合同運営委員会（於、図書館会議室）
- 3月
- 8日（月）EBSCONET デモ（於、図書館会議室）
 - 11日（木）和歌山県立医科大学図書館員が見学来館（一名）
 - 26日（木）図書館合同運営委員会（於、図書館会議室）
- 4月
- 8日（木）新入生オリエンテーション（於、さわらぎキャンパス）
- 5月
- 7日（金）日本医学図書館協会組織委員会（於、福岡大学医学部）
 - 10日（月）EBSCO社講演会に館員参加（於、新阪急ホテル）
 - 12日（水）次期図書館システム打合せ会（於、図書館会議室）
 - 20日（水）－21日（木）第70回日本医学図書館協会総会（於、福岡国際会議場）
 - 27日（木）図書館合同運営委員会（於、図書館会議室）Science Directシステムの説明会（於、図書館会議室）
 - 27日（木）－28日（金）平成11年度著作権講習会に館員参加（於、柏原市）
- 12日（月）看護専門学校新入生オリエンテーション（於、看護専門学校大研修室）
- 15日（木）日本医学図書館協会総務会（於、協会中央事務局）
- 22日（木）日本医学図書館協会理事会、評議員会（於、慶応大病院）
- 28日（水）近畿地区医学図書館協議会例会（於、和歌山県立医科大学）

編 集 後 記

今回のトップ記事は、窪田教授に、またエッセイは田中助教授にお願いしました。「二十一世紀の医療環境」というテーマのシリーズについては、牧氏に三回目の投稿を頂きました。今回は、新年度号になりますので、図書館の利用統計等を掲載いたしました。その他沢山の方に執筆していただき、有り難うございました。表紙のカットは、恒例により、北村達郎氏にお願いしました。OMNIBUSに対する読者からの投稿やご意見をお願いいたします。（茂幾）

OMNIBUS 「大阪医科大学図書館報／大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」

No.14号 1999年6月15日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (0726) 83-1221

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社